

令和 6 年度 第 3 回

白石町まち・ひと・しごと創生推進会議議事録

日時：令和 6 年 11 月 13 日（木）19：00～20：40

場所：白石町役場 3 階大会議室

1. 開会【進行：総合戦略課長】

2. 会長あいさつ

○会長

皆さんこんばんは。本日は大変お疲れのところ、またお忙しい中に今年度 3 回目となります白石町まち・ひと・しごと創生推進会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。この会議は人口問題に特化したものでございます。この後ご報告がありますが、今回、直近のデータをもとに人口の将来推計を行ったところですが、かなり深刻な予測が出ています。また、現在においても、人口減少によって多くの分野で様々な影響が出ているところです。人口は地域の暮らしやまちをつくる上での基礎となりますので、町民の皆様にも状況をお示しして、行政と地域住民の皆さんがともに当事者意識をもって取り組んでいきたいと改めて思ったところです。

本日は、第 3 期総合戦略と人口ビジョンについて素案をもとに協議していただきたいと思っております。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

3. 報告事項

○総合戦略課長

次第の 3 番目、報告事項に移ります。(1)第 2 回会議録について。9 月 25 日に開催しました前回会議の会議録です。こちらは後ほどご確認いただき、修正点等ございましたら、11 月 29 日(金)をめどに事務局の方までご連絡をいただければと思っております。

3. 協議事項

○総合戦略課長

それでは、次第の 4、協議事項に入ります。ここからは百武会長の方に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○会長

それでは本日の私の方で議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。早速協議事項の(1)白石町人口ビジョンについて。前回の会議で少しお話しがありましたけども、人口ビジョンの改定作業を行っております。素案が本日の会議に間に合いましたので、このことについて事務局からの説明をお願いいたします。

○白石創生推進係主事

令和7年3月改訂予定の人口ビジョンの素案についてご説明させていただきます。表紙をめくって目次をご覧ください。中身を、「1. 人口の動向」「2. 将来人口の推計と分析」「3. 人口の将来展望」の大きく3つに分けました。1. 人口の動向では、現在までの白石町の人口動態、2. 将来人口の推計と分析、3. 人口の将来展望では、今後の推計とシミュレーション、今後の展望を示しました。それでは1. 人口の動向に入ります。2、3ページには、2020年までの国勢調査の結果と、国立社会保障・人口問題研究所による2025年以降の推計を掲載しています。年少人口、生産年齢人口は減少し続け、老年人口は増加し続けていますが、来年2025年には老年人口も減少に転じるとされています。

続いて4ページには出生者数、死亡者数、移動者数の推移を示しました。この3つは「人口変動の3要素」とよばれ、人口問題を理解する重要な指標とされます。ここで、出生数から死亡者数を減じたものを自然増減、転入数から転出数を減じたものを社会増減といいます。例えば、出生数が死亡者数より多い場合は自然増となります。2000年以降、黄色線の死亡者数はほぼ横ばいですが、青色の出生数は減少傾向にありますので、自然減が加速しています。また、社会増減に関しても、緑線の転入数を桃色線の転出者数が上回り続けているため社会減となります。自然増減、社会増減ともに減ですので、白石町の人口は減少し続けています。

続いて5ページには、年齢階級別の人口動態を示しました。それぞれの年齢10歳階級ごとに社会増減をグラフ化しています。ライフステージの変化によって移動しやすい紫色の20歳代、次いで黄緑色の10歳代の転出超過が顕著です。

続いて6、7ページには地域ブロック別の人口移動を掲載しました。福岡県、佐賀県、その他の県すべて転出超過となっていますが、特に赤色の佐賀県内への転出超過が目立つことがわかります。

続いて8ページです。性別・年齢別の転出入の状況を示しました。5歳階級、男女別にすると母数が少なく傾向が読み取りづらいため、令和3年から5年までの3年間の合計数を用いました。上が転入状況、下が転出状況です。転入、転出ともに20代が多いですが、2つのグラフを見比べてみると、特に20～24歳の社会減が大きいこともわかります。

9ページをご覧ください。合計特殊出生率と出生数の推移を示しました。折れ線グラフが合計特殊出生率、棒グラフが白石町の出生数です。2005年以降、合計特殊出生率は緩やかに減少しており、2018年には1.50を下回りました。また、出生数は増減の変動があるものの減少傾向にあり、2022年は112人でした。1. 人口の動向については以上です。

続いて2. 将来人口の推計と分析に入ります。10ページをご覧ください。本町の人口

分析を示しました。青色が社人研の推計、桃色が地域活性化センターの推計です。2045年の人口は、社人研では14,043人、地域活性化センターでは13,678人と推計されています。続いて11ページです。表4に、2050年までの将来人口と、年齢3区分別人口比率を示しました。どちらの推計においても、年を追うごとに総人口に占める年少人口、生産年齢人口比率が低下し、老年人口比率が上昇しています。一方で、人口の減少段階は、①老年人口が増加し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階、②老年人口が維持・微減し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階、③老年人口、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階の3段階に分けられるとされています。表5に、各推計における将来人口と年齢3区分別人口及び老年人口減少率を示します。これにより、2020年までの白石町は「①老年人口が増加し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階」であったことがわかります。また、「②老年人口が維持・微減し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階」となるのは、社人研の推計では2025年、地域活性化センターの推計では2030年であることもわかります。2. 将来人口の推計と分析については以上です。

最後に、3. 人口の将来展望に入ります。12ページをご覧ください。繰り返しになりますが、本町は自然増減、社会増減ともに減であり、出生数が少なく、10代後半から20代までの転出者が多いです。また、転出先をみると、佐賀県内の他市町、福岡県が多数を占めています。子どもや若者が魅力を感じ、将来も「住みたい、住み続けたい」、あるいは、白石町に「戻りたい、いずれは住んでみたい」と思うよう、雇用・教育環境の向上を実現し、深刻な人口減少を食い止める必要があります。また、新たに白石町の魅力を発信し、白石町にゆかりがなくても「住みたい、いずれは住んでみたい」と思うような施策の実施も必要です。この目標に従い、ページ下部に記載している、1)本町にゆかりのある人の流入を促進し、流出を抑制する。2)「働く」「遊ぶ」「学ぶ」「買う」を充実させ、本町にゆかりのない多様な人の流入を促進する。3)新婚世帯や若年世帯を取り込み、出生数を増加させる。4)老若男女が活躍し、かつ安心して暮らせるまちづくりに取り組む。5)シビックプライドの醸成に取り組み、流出の抑制・Uターンの促進につなげる。この5つの方向性を軸とします。

続いて13ページに移ります。前回の会議で少々ご報告しておりました推計とシミュレーションを掲載しています。白石町全体と各8小学校区において、①現状のまま推移した推計、目標として、地域の安定化のために②毎年100人を取り戻した場合の推計を行いました。「毎年100人を取り戻す」には、流入を促進することの他に、流出を抑制すること、出生数を増加させることも含まれます。また、表6の取り戻しの想定条件は、2024年6月30日時点の人口比に応じて各年齢階級に割り振っています。各小学校への割り振りも同様です。では、まず白石町全体の推計に入ります。14、15ページをご覧ください。図12に現状推移を、図13に毎年100人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020年と比較した2065年人口の減少率は64.5%、高齢化率は50%まで上昇するとされています。これが、毎年100人を取り戻した場合、2065年人口の減少率は47.7%、高齢化率は43%まで抑えられるとの推計結果でした。続いて、16、17ページをご覧ください。ここからは、8つの小学校区ご

とに行った推計結果を示します。一番人口の減少が緩やかな校区と一番減少が激しい校区では、大きく違う推計となりました。

それでは、白石小学校区の推計に入ります。図 14 に現状推移を、図 15 に町全体で毎年 100 人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020 年と比較した 2065 年人口の減少率は 26.2%、高齢化率は 34%とされています。これが、毎年 100 人を取り戻した場合、2065 年人口の減少率は 3.7%、高齢化率は 31%まで改善するとの推計結果でした。白石小学校区は転入者が多いため、他の校区と比較すると減少が緩やかですし、町全体で毎年 100 人を取り戻した場合はほぼ横ばいです。

続いて六角小学校区の推計に入ります。18、19 ページをご覧ください。図 16 に現状推移を、図 17 に町全体で毎年 100 人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020 年と比較した 2065 年人口の減少率は 51.4%、高齢化率は 44%まで上昇するとされています。これが、毎年 100 人を取り戻した場合、2065 年人口の減少率は 32.5%、高齢化率は 39%まで抑えられるとの推計結果でした。

続いて須古小学校区の推計に入ります。20、21 ページをご覧ください。図 18 に現状推移を、図 19 に町全体で毎年 100 人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020 年と比較した 2065 年人口の減少率は 74.7%、高齢化率は 63%まで上昇するとされています。2065 年の高齢化率は須古小学校区の 63%が最高値です。これが、毎年 100 人を取り戻した場合、2065 年人口の減少率は 59.6%、高齢化率は 51%まで抑えられるとの推計結果でした。

続いて北明小学校区の推計です。22、23 ページをご覧ください。図 20 に現状推移を、図 21 に町全体で毎年 100 人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020 年と比較した 2065 年人口の減少率は 75.1%、高齢化率は 54%まで上昇するとされています。2065 年人口の減少率は北明小学校区が最高値です。これが、毎年 100 人を取り戻した場合、2065 年人口の減少率は 60.1%、高齢化率は 44%まで抑えられるとの推計結果でした。

続いて福富小学校区です。24、25 ページをご覧ください。図 22 に現状推移を、図 23 に町全体で毎年 100 人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020 年と比較した 2065 年人口の減少率は 70.2%、高齢化率は 57%まで上昇するとされています。これが、毎年 100 人を取り戻した場合、2065 年人口の減少率は 54.7%、高齢化率は 47%まで抑えられるとの推計結果でした。

続いて有明東小学校区です。26、27 ページをご覧ください。図 24 に現状推移を、図 25 に町全体で毎年 100 人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020 年と比較した 2065 年人口の減少率は 72.0%、高齢化率は 57%まで上昇するとされており、有明地域ではともに最高値です。これが、毎年 100 人を取り戻した場合、2065 年人口の減少率は 56.2%、高齢化率は 47%まで抑えられるとの推計結果でした。

続いて有明西小学校区です。28、29 ページをご覧ください。図 26 に現状推移を、図 27 に町全体で毎年 100 人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020 年と比較した 2065 年人口の減少率は 53.5%、高齢化率は 48%まで上昇

するとされています。これが、毎年 100 人を取り戻した場合、2065 年人口の減少率は 35.2%、高齢化率は 42%まで抑えられるとの推計結果でした。

最後に有明南小学校区です。30、31 ページをご覧ください。図 28 に現状推移を、図 29 に町全体で毎年 100 人を取り戻した場合の推移を示しました。現在のまま推移した場合、2020 年と比較した 2065 年人口の減少率は 68.6%、高齢化率は 53%まで上昇するとされています。これが、毎年 100 人を取り戻した場合、2065 年人口の減少率は 52.7%、高齢化率は 44%まで抑えられるとの推計結果でした。人口推計とシミュレーションは以上です。

また、補足として、32 ページに社人研、地域活性化センターでそれぞれ用いられたコーホート要因法とコーホート変化率法の特徴を記載しています。参考として、その右のページには、本町の総人口の国勢調査値を添えました。長時間になりましたが、人口ビジョンについては以上です。

○会長

ただいまの説明にご質問等ございませんか。

○委員

もう一度、推計をどのように計算されたかご説明いただけますか。

○白石創生推進係長

現状推移の方は 2019 年と 2024 年の住基データの減少率を、まず各 5 歳刻みの年齢ごとに出しまして、2020 年の人口データにその減少率をかける方法で推計を出しています。これはコーホート変化率法といい、地域活性化センターの方で出してもらっています。次の毎年 100 人を取り戻すときのシミュレーションにつきましては、まず町全体でいきますと、その 100 人を 2024 年 6 月時点の人口比で各年齢の人口比に割り振っております。シミュレーションをする際にはこの設定でシミュレーションをしています。また、各小学校についても、現在の小学校区の人口比でそれぞれ按分し、同じように推計をしています。

○委員

あと、この 100 人という数字の根拠は何なのか説明をお願いしたいです。

○総合戦略課長補佐

元々数字を出していく中で、人口の 1%を取り戻すというスローガンを掲げられてはどうかというような意見がありました。1%を取り戻したと仮定して人口推計をした場合、2065 年時点で大体 1 万 6000 人ぐらいの人口になるという数字が出ました。実際のところ、1 万 6000 人を目標値として出してもいいかなとも思いましたが、前回お話ししましたとおり、手の届くところにゴールをおかないといけないのではなかろうかと。1 万 6000 人がまるきり無理というわけではありませんが、やはりかなり厳しいかなと。前回の人口推計の中でも、2065 年については 1 万と 800 人程度だったかな。ところを目標とさせていただいております。今回は 1 万 2000 人弱になっておりますので、前回よりちょっと目標は上げさせていただいております。検討していく中で 1%が

やはりちょっと無理なんじゃなかろうかと。その半分の 0.5%、大体 100 人であった場合はどうなのかと計算していった、目標値を設定させていただきました。

○会長

それでは(2)第3期白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略に入りたいと思います。今回は素案の第3期と現行の第2期を見比べながら聞いていただければと思います。項目ごとに区切りながら協議を進めていきます。それでは初めに趣旨から体系図のところ、1ページから3ページまで、事務局の説明をお願いします。

○白石創生推進係主事

それでは、1ページをご覧ください。1.趣旨。白石町の人口は毎年減少を続けており、今後も減少が見込まれています。特に若い世代から選ばれるまちづくりが喫緊の課題です。このため本町では、まち・ひと・しごと創生法第10条の規定に基づき、白石町人口ビジョンにおける人口の将来展望等を踏まえ、平成27年から令和元年までを第1期、令和2年から令和6年までを第2期とした白石町まちひとしごと創生総合戦略を策定し、人口減少は地域経済を縮小させ、さらに人口減少を加速させる負のスパイラルの克服と地方創生に取り組んできました。

これまでの取組により一定の成果は出てきているものの、全体的には過疎化や地域産業の衰退に歯止めがかかっておらず、引き続き息の長い取り組みが必要です。

そのため、国におけるデジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案して、令和7年度からの第3期白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、夢や希望を持って暮らせる社会、個性豊かで多様な人材の確保、多様な就業の機会の創出を目指して、更なる地方創生の動きを加速させていきます。

また、この白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、白石町総合計画の人口問題等に関する個別計画として位置づけ、その他の個別および関連計画との連携を図りながら取り組みます。その関係図は下図となっております。

続きまして2ページです。2.総合戦略の計画期間。総合戦略の対象期間は、令和7年度から令和10年度の4年間とします。

3.総合戦略の検証・改善・改訂。総合戦略の効果検証及び改善については、基本目標の数値目標や具体的施策に係るKPIの達成度による検証・改善を重ねる仕組み、PDCAサイクルを確立し、適切に管理していきます。

また、効果的な施策の追加が必要な場合などは、柔軟かつ積極的に対応するため、年度中途であっても改訂していきます。

3ページです。4.総合戦略の体系図。白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、以下の4つの基本目標を設定し、その具体的な施策に取り組むことで、白石町人口ビジョンの将来展望の達成に努めます。図右側、第3期白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標①白石に仕事をつくる。基本目標②ひとの流れをつくる。基本目標③結婚・出産・子育ての希望をかなえる。基本目標④魅力的な地域をつくる。この基本目標の具体的な施策に取り組むことで、左側の白石町人口ビジョンの達成に努めることとしております。人口ビジョンでは、1.人口の分析。本町の総人口は今後

も減少を続ける。人口流出が止まらなると今後は加速度的に人口減少が進む。2. 人口の将来展望。人口減少を悲観せずに、様々な施策により人口減少のスピードを抑える。毎年 100 人の人口減少を取り戻すことを目指し、目標人口を令和 12 年度は 1 万 9513 人、令和 47 年には 1 万 1791 人とします。説明は以上です。

はい。

○会長

これについてご質問等ございませんか。では次に第 2 期の検証結果・評価及び第 3 期での改善点等です。4 ページから 8 ページまでの説明をお願いします。

○白石創生推進係主事

続きまして 4 ページ、第 2 期の検証結果・評価及び第 3 期での改善点等です。まず、こちらに関しては前回の会議で協議事項としていたまとめを掲載しています。KPI の数値目標は 5 年間としておりましたが、今回実績としては 4 年間の実績値を掲載しております。令和 6 年度の実績が確定しましたら、令和 7 年度に改訂する形で年間の実績を反映します。

それでは基本目標①の 1、企業誘致や起業等による雇用の確保です。KPI の達成がなく、具体的な施策の多くが KPI に有効であったとはいえないという評価がある一方、企業誘致等時間を要する事業との評価でした。第 3 期については新たな KPI を設定し、施策の見直し、その達成に向けた事業に取り組みます。KPI 数値目標、実績値に関しては前回の会議の資料でお示ししたものをまとめていますので、表の説明は割愛します。続いて 2 新規就農者および農業後継者の育成・確保。KPI の数値は達成していませんが、農業従事者の高齢化、後継者不足を受け、新規就農者や後継者への支援、就農及び移住を目的とした首都圏等からの就農希望者を受け入れる「しろいし農業塾」などに取り組み、一定の成果がありました。継続的な取組や成功例を作ることが必要という評価を踏まえ、第 3 期についても引き続き事業に取り組みます。続きまして 5 ページ、3 新しいことへ挑戦する人への積極支援。KPI を達成できました。今後の課題として、創業者の現況把握や農産物の情報宣伝、販路拡大が必要との評価でした。第 3 期については KPI の見直しを含め、事業を継続していきます。4 ふるさとで活躍する人材の育成。KPI の数値に対し、一定の成果がありました。第 3 期についても引き続き、企業や大学、高等学校等との連携に継続して取り組みます。

続いて基本目標②の 1、白石町の魅力発信。KPI を達成できました。道の駅の情報発信コーナーや SNS の有効活用、テレビやラジオなどメディアを使った情報発信により一定の成果がありました。第 3 期ではさらに発展させるため、新たな KPI を設定し、施策の見直し、その達成に向けた事業に取り組みます。続いて 6 ページです。2 定住促進、移住支援。KPI の数値を達成できた取り組みがあった一方で、進捗のなかった施策もありました。第 3 期は新たな KPI を設定し、施策の継続、その達成に向けた事業に取り組みます。3 地域観光資源の再発見。KPI を達成できた一方で、進捗がなかった施策もありました。観光イベントに町内外から多くの来訪者があり、一定の成果がありました。第 3 期はさらに発展させるため、新たな KPI を設定し、施策の見直し、

その達成に向けた事業に取り組みます。

基本目標③の1、結婚推進対策の充実。KPIは達成していませんが、継続していくことで定着が図れるとの評価がありました。第3期はKPIを見直し、その達成と事業の定着に向けて引き続き取り組みます。2 出産支援。第3期では新たなKPIの設定、施策の見直し、その達成に向けた事業に取り組みます。3 子育て支援。KPIは達成していませんが、多数は有効だったとの評価でした。第3期は新たなKPIを設定し、施策の継続、その達成に向けて引き続き事業に取り組みます。4 教育環境の整備。新設中学校が開校しました。第3期は小学校再編整備、魅力的な教育環境整備に向けて、引き続き事業に取り組みます。

続いて8ページ、基本目標④の1、町民協働によるまちづくり。生活環境など地域の問題を地域住民が解決するため、2 地区で地域づくり協議会が設立されました。第3期は設立後の活動支援やフォローアップ、新地区での設立に向けた準備委員会の取組支援を行います。2 安全・安心で快適な住みよいまちづくり。第3期では新たなKPIの設定と見直し、その達成に向けて引き続き事業に取り組みます。3 誰もが活躍できるまちづくり。KPIは達成していませんが、多数は有効であったとの評価でした。第3期では新たなKPIを設定し、施策の見直し、その達成に向けて事業に取り組みます。説明は以上です。

○会長

ただいまの説明について、ご質問等ありませんか。

○委員

人口ビジョンにも出ていたので確認したいことがあります。第2期が行われる前の人口減少のカーブと、第2期を含めた時期の人口の推移がそれぞれ推定できますよね。第2期がうまくいったのであれば、少しは傾きが減っているという判断ができそうですが、そういう実績の評価っていうのはされたのでしょうか？

○白石創生推進係長

そこまでの分析はまだ今もできてないです。6年度実績時点で人口の動態を求めたいと思います。

○委員

はい、よろしくお願いします。

○総合戦略課長

補足をしてよろしいでしょうか。前回の人口の目標数値ですが、ほぼ予測していたもの、目標としていたものと同じぐらいのところで推移しています。今回、毎年100人を取り戻すということですが、毎年100人を取り戻すことを達成すると、大体5年ごとに減少率が5.5%とか5.6%くらいになります。現状で申しますと、減少率は7.8、9%だったものが、今年度が大体7%に乗るか乗らないかになるぐらいだと思います。人口減少対策の評価としてはある程度の評価できるかなと思っておりませんが、次回からは7%程度の減少率であったものを、5.5%から6%、その程度に抑えようというよ

うな推移を今示しているということです。

○白石創生推進係主事

それでは続きまして、第3期の基本目標、基本的方向、具体的な施策についてです。10ページ以降に基本目標を記載しておりますが、各基本目標における数値目標やKPIは、白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的な施策の実行により達成すべき目標を記載しています。こちらは民間企業や個人による雇用など、町で把握できないものは対象外としております。10ページをご覧ください。基本目標①白石に仕事をつくる。目指すSDGsは下記の5つです。数値目標は、地域おこし協力隊隊員採用数を4年間で5人、企業誘致を4年間で2社としました。(2)現状と課題。本町では、就職・進学をきっかけに多くの若者が町から出て行かれて出ていかれます。時代を担う若者の流出は白石町にとって大きな痛手となるため、魅力のある職業、安定した収入など、安心して働ける場をつくり出す必要があります。全国的に人手不足の状況にあり、DX化の推進や労働力の確保が課題となっています。地域課題や地域資源の可能性に着目して、本町が必要とする職種や人材像をまとめ、発信していく必要があります。白石高校、佐賀農業高校では、それぞれ地域単位探究学習に取り組まれており、高校との更なる連携強化が求められています。(4)目指すべき方向。地域おこし協力隊を採用し、地域活性化の仕事へのチャレンジを支援します。“農業のまち”の魅力を引き出していきます。高校や大学と連携し、地元定着につながる活動に取り組みます。雇用の確保のため、企業誘致の推進に取り組みます。白石町の既存企業を育成・支援し、また、新しく起業することへのチャレンジや出店を支援します。農業支援体制を強化し、新規就農者や農業従事者の育成・確保を目指します。赤字の部分は第2期から変更した部分です。(5)具体的な施策とKPI。1企業誘致や企業等による雇用の確保について、KPIとして、地域おこし協力隊隊員採用数を4年間で5人、出店数を4年間で2店、企業誘致を4年間で2社と設定しました。具体的な施策の内容につきましては、前回の会議で協議事項として出しましたので内容については割愛させていただきます。施策に関しては(1)地域活性化の仕事へのチャレンジ支援、(2)働く人たちの空間作り、(3)企業誘致の推進としております。次に15ページです。2新規就農者及び農業後継者の育成・確保。KPIとして、新規農業従事者数を4年間で80人、しろいし農業塾卒業者の農業従事者数を4年間で12人、赤字の農業従事者(被雇用者数)に関しては、担当課で協議し、今回は記載しないこととなりました。具体的な施策として、(1)新規就農者の確保及び支援、(2)しろいし農業塾を挙げています。続いて13ページです。3新しいことへ挑戦する人への積極支援。KPIとして起業・創業者数を4年間で20人、「なたね(ナナシキブ)」の面積拡大を令和6年度の8haから令和10年度に20haです。具体的な施策として(1)白石町創業者支援制度、(2)ブランド化農産物の作付拡大、(3)商工業者などへの支援を挙げました。次に14ページをお願いします。4ふるさとで活躍する人材の育成。KPIは、企業・CSO・町等と学校が連携する取り組みの数を4年間で20回としました。具体的な施策は(1)“ふるさと学”の推進、(2)地元定着の促進としております。基本目標①についての説明は以上です。

○会長

担当課長から補足等あればお願いします。

○農業振興課長

12 ページの(3)農業従事者(被雇用者)確保対策を削除したことについてご説明をいたします。この仕事をつくるという面で、農業従事者だけでなく雇用される者についても総合戦略に挙げてきました。この項目については、佐賀県農業会議所が行っております雇用就農資金という事業を活用しているところです。この事業については、法人化された農家、また大規模農家等の一定の要件がありますが、50 歳未満の就農希望者が独立就農するまでの研修をしたり、新たに農業法人を設立して独立就農することを目指す人を雇用したりする場合に助成対象となります。最長 4 年間交付されます。白石町では大体毎年 1 人か 2 人ぐらいの規模ですが、この事業について実際町で行っているのは、問い合わせがあったときの対応、また広報等です。今後この事業の方向性について農業会議所等に問い合わせたところ、全国の事業で人気もあるということで、採用が今後厳しくなる可能性があることが一つ。もう一つは、町が単独で予算を組み、町が主体的に取り組むことが難しいということです。町の施策としてはこの就農資金の紹介等を行っていきませんが、総合戦略からは削除しました。

○会長

委員の皆様からご質問等ございませんか。

○委員

今回の第 3 期については、国によるデジタル実装の基礎条件整備を土台とした形で案を考えていくような形なるのかなと思います。そのときの具体的な目標に対して、DX なりデジタル化というふうな文言が少し少ないような感じもしていますが、その辺についてはどういうふうに考えたらいいかと教えていただきたいと思っております。

○白石創生推進係長

ご覧のとおり、具体的な施策としてデジタル推進というような文言は現状出てきません。一つひとつの施策の一コマといいますか、そのデジタルを活用してアンケートの実施や施設の予約、行政の事務手続きにデジタルの要素を取り入れている等ですね。あるいは、例えば観光客等の人数を把握するときにデジタルを活用するといったことで、デジタルを活用するということですね。実務面での活用は表には出てきませんが、取り入れている部分はありますし、今後さらに町全体で推進していくことにはなってくる予定となっています。

○委員

新規の就農は、白石町が主にメインの産業として農業があるから上がっていると思いますが、新規就農を進めるのは難しいのかなという気がします。私も農業に携わっていたので思いましたが、機械がないとどうしようもないですね。新規の就農を機械が全くないところから立ち上げるのは、まず無理じゃないかと思います。それに関してここに書いてある文言でどうにもならないように思いますがどうでしょう。新規

農業したちょっと何か新規就農で農業に就かれた方を見てきましたが、やはり機械が重要。全く機械を持ってない方が就こうとすると、それが一番の壁という気がします。そこについてはどう考えでしょうか？

○農業振興課長

おっしゃる通り、新規就農者がゼロから、例えば農機具の収納小屋もないとか、トラクター、コンバインもないとか、そういう状態から始めるというのはなかなか難しいのが現状でございます。今白石町の方で取り組んでいるのは、(1)新規就農者の確保及び支援と(2)農業塾ということで、イチゴやキュウリ等の施設園芸栽培をゼロから始められることが多くなっております。これについては、資材高騰等で建設費は数千万単位になっていますが、5割以上は国、県、町の補助が受けられますのでそれを活用していただく。また新規就農者については、就農する前の準備資金、経営を開始した後の開始資金、低利で資金を借り入れられる青年等就農資金等の事業を新規就農の方にご紹介しています。これについては町だけではなく、JAさんや県の農業振興センター共々ご相談に乗りながら進めています。また、令和5年度は佐賀県内の新規就農者250人ぐらいいらっしゃいますが、その1割から2割弱ぐらいは白石町の方が占めています。施設栽培ではなかなか土地利用の方が難しいですが、今後はそういうことも課題だと思っています。

○委員

ありがとうございます。私が聞きたかったのは“白石町”なんですよ。人材の奪い合いが始まっていると思うので、いかに注目されるか。例えば佐賀市や小城市に新しく就農するのではなくて、白石町に就農してください。ということが欲しいと思いました。県や国の補助金は日本中どこでも一緒ですよ。それだったら新たにこっち来てもらうのはあまり期待できないので、白石で就農してもらうにはどうしたらいいかというのがあった方がいいのではないかなと思ったのが私の質問の元々の意味です。そのときに、例えば一番難しいのは機械とか施設園芸の資金ですよ。そこは白石町に行くと、なんともっと簡単にできますよ。とか。一般的な話はもう他の県や市もやっているのではないかなと思っていて。白石町が何をやるかというのが私は大事なかなと思いました。

○農業振興課長

どこでもやっているじゃないかというようなことかとも思いますけれども、例えば園芸事業に対する補助については、毎年白石町については60件から80件ぐらい補助を行っております。これについてはもちろん町の持ち出しもありまして、そのような規模です。しかし、例えばお隣の江北町では、年に数件しかないそうで、圧倒的な数を誇っております。また玉ねぎ、レンコン等についても、白石町が一大産地ということで、レンコンを作るならば白石町だと思って来まして、という方も実際にいらっしゃいますし、産地としての支援が受けられることも魅力ではないかなと思います。今他の市町村では、先ほどの補助事業について単独の予算というのはなかなかつけていませんが、白石町では希望者も多いことに合わせて補助の方も精一杯しています。も

う一つこのしろいし農業塾制度ですね。これについては県外からの新規就農者を指しますが、住居費や、営農車の対応等ですね。手厚い助成を行っているというところは大きな特色でもありますので、東京、大阪等に新規就農の募集に行きますけれども、やっぱり白石町が手厚かったからということで、今の農業塾トレーニングファームに研修の希望者が来ています。

○会長

それではですね次に進みたいと思います。基本目標②です。15 ページから 18 ページまで、説明をお願いします。

○白石創生推進係主事

基本目標②ひとの流れをつくる。目指す SDGs は下記の 5 つとします。数値目標として、観光入込客数を、令和 6 年度の年間 89 万 3000 人から令和 10 年度に年間 107 万人。移住・定住者数を 4 年間で 450 人としております。(3)現状と課題。地域資源のブランディングや新たな価値の創出による本町の魅力向上が必要です。首都圏からの地方移住者の自治体間での獲得競争が激しくなっています。近隣の自治体で人口を奪い合っても根本的解決には繋がらないという面がある一方で、本町は近隣自治体に人口が流出している現状があります。本町と何らかの関わりのある方たちに地域と多様に関わっていただく、関係人口を拡大していくことは有効な手段です。町内では、空き家や空き地が増加しています。物価高騰が続いており、住宅取得に対する支援は移住定住の後押しになります。地域経済の発展には、道の駅しろいしから町内の名所旧跡や飲食店等への人の流れを作り出すことが求められます。(4)目指すべき方向。町民のシビックプライドの高まりを目指して、町の魅力や情報発信を行います。道の駅しろいしを拠点とした特産物 PR に加えて、催事等に積極的に参加していきます。地域資源の有効活用により人の流れを作り、町内の経済活性化を図ります。空き家・空き地を活用し、移住者が住みやすい受け入れ態勢をつくります。若者や子育て世帯等に対する住宅取得支援や、首都圏や県外からの移住者への支援を継続していきます。須古城跡の国史跡化に向けた取り組みを行い、遺跡を観光資源として活用していきます。16 ページですね。具体的な施策と KPI。1 白石町の魅力発信について、KPI に道の駅来場者数を令和 6 年度の年間 76 万人から令和 10 年度に年間 91 万人を掲げました。こちらは前回の協議事項の時から数字を変更しております。また、町外催事の参加回数を、令和 6 年度の 5 回から令和 10 年度に 10 回、町公式 LINE 登録者数を令和 5 年度末の 800 人から令和 10 年度末に 2000 人、在京ふるさと会 SNS 会員数を令和 10 年度に 300 人とします。具体的な施策は、(1)道の駅運営支援、(2)特産物等に関する情報発信、(3)町民に向けた町の魅力発信、(4)在京ふるさと会との連携強化とします。続いて 2 定住促進、移住支援についてです。KPI は、空き家・空き地バンク登録件数を 4 年間で 60 件、浄化槽設置数を 4 年間で 180 基、移住・定住者数を年間で 450 人です。具体的な施策として、(1)空き家・空き地バンクを活用した支援、(2)JR 通学者・通勤者の利便性向上、(3)生活排水処理施設の整備の促進、(4)住宅取得者への支援、(5)移住者への支援を挙げています。続いて 18 ページです。3 地域観光資源の再発見につい

て。KPI として、観光入込客数を令和 6 年度の年間 89 万 3000 人から令和 10 年度に年間 107 万人、歴史関連講座開催数・参加者数をそれぞれ年 15 回、年 400 人、町ホームページ内観光サイトへのアクセス数を令和 6 年度の年間 6 万件から令和 10 年度に 7 万 2000 件とします。具体的な施策(1)地域資源の魅力の再発見、(2)文化財の再発見、(3)交通手段の拡充(観光客の利便性の向上)、(4)中長期的な観光戦略の策定としております。基本目標については以上です。

○会長

それでは質問等お受けしたいと思います。

○委員

道の駅来場者数の 76 万人と、観光入込客数の 89 万 3000 人は別のもの考えていいのでしょうか。それとも、観光客の中に道の駅の来客者数が入ると考えた方がいいのでしょうか？

○商工観光課長

道の駅の代表者数と観光客数の数字ですが、道の駅の来場者数を観光客数に含めた数で計上しています。令和 6 年度の数字から 20%増を目標に掲げています。

○委員

それでは令和 6 年度については、89 万人から 76 万人を引いて、約 13 万人の方が道の駅以外で観光に来られたということになるかと思います。町内でも、例えば歌垣の里のロードレースやぺったんこ祭等、様々なことをされていますが、そういうふうなところに参加された数が約 13 万人という形で考えてよろしいでしょうか？

○商工観光課長

はい、そのようにカウントしております。またそれ以外に、白石町においてはデジタルを使い、来場客のスマホにある GPS 機能を用いた統計データを採用しております。そちらの方から白石町に来られた方の人口の動きを把握し、こちらの方の数字を出しております。イベントの他にも、例えば歌垣公園や他の神社等に来られた方をカウントしてこちらの方の数字を出しています。

○委員

白石に観光で来てもらうという考え方でいいんですね。

○商工観光課長

ベースはそうですね。観光で来てもらうということでこちらの方を上げております。

○委員

何か行事をするときに最初に気になるのはトイレですよ。観光地に行ってトイレがあるかどうか結構重要なポイントかな。トイレがなかったらもう 2 度と来ないなと判断してしまうことが結構あるので、白石町のこういった観光地、例えば歌垣山

の上や須古地区の縫の池等に観光客が使いやすいようなトイレは現在ありますか。

○商工観光課長

トイレは整備できる場所ありますが、まだまだ整備ができていないところもございます。今後観光客をより誘致する上で、施設の整備も並行して今進めているところではございますが、まだまだできてないところは正直ございます。

○委員

先日にお供養をしまして、以前こちらに住んでいた親戚が懐かしさもあり観光を兼ねて来ました。自分たちでパンフレットを見て、昔なじみのところに行ってきました。それに加えて懐かしい食べ物ですね。私たちだと北明堂の丸ぼうろ。そういった昔の味を求めて来町される方もいらっしゃいます。高齢だから次また白石に来ることができるかもわからない。来ることができない方にはこちらから懐かしい味を送りたい。しかし事業者の高齢化や後継者不足が問題になっています。白石町にはたくさんのお菓子屋さんや飲食店があります。須古寿司は今ようやく JA 等で残していこうと動きがありますが本当に微力です。このような継承問題を商工観光と絡めた形でやっていけないものかと少し思いました。そういう事業をされているかというところですね。

また、話は変わりますがけれども、JR の駅の利用を促進するために駅の周辺を整備するということですね。高校生の皆さん、雨の日とか天候の悪いときにどこにいるのだろうと思って。とてもそれが心配ですね。その辺のところをちょっともう少し詰めてほしいなと思っています。

○商工観光課長

白石町自体、特産物等美味しいものがたくさんありますね。食の面でそれをどう観光に結びつけていくかということを今後進めていきたいと思っておりますし。また、昨日観光協会発足式を行われた観光協会の方でも、今後プロモーション事業を進めていかれると思いますし、今まで眠っていたような支援をさらに磨き上げて、町の PR に繋げていくというのも押し進めていく予定にしております。今後食については特に、観光に繋がるようなことで進めていければと思っております。

○総合戦略課長

商工観光課長にちょっと追加させていただきます。伝統ある食がなくなるとか、昔懐かしい味がなくなるとするのは、特に外から来られた方、U ターンされて来られた方にとっては非常に残念ですよね。そういったところを解消したいという思いもございますし、今後高齢化がますます進み、事業承継ができないというパターンが多発すると思いますので、現在佐賀市にあります事業承継センターの職員とタイアップさせていただいて、その辺のリサーチに我々も努めているところでございます。それと JR ですね。私達も行政の課題とも捉えておりましたのが、やはり高校生が雨のとき、夕方とか特に。待合室が非常に狭いものですから。1 日あたり 1000 人ぐらいの乗降客のうち 9 割が高校生です。そういう中で 2 年ぐらい前から高校生とワークショップを重

ねてまいりまして、実は肥前白石駅の待合室の整備の基本計画に今かかっております。高校生、特に特に女子高校生が求めているのはやはりおしゃれで落ち着いて、そして待合の時間に学習や語らいができる場所が欲しいという要望が非常に多くありましたので、この辺りを踏まえ、できるだけイケてる、おしゃれな空間を作り出せればなと思っております。

○会長

それでは次に、基本目標③、19 ページから 23 ページまで事務局からお願いします。

○白石創生推進係主事

基本目標③、結婚・出産・子育ての希望をかなえる。目指す SDGs は下記の 6 つです。数値目標は、結婚新生活支援組数が 4 年間で 100 組、出生が 4 年間で 420 人となります。現状と課題。核家族化や人口減少、価値観の多様化により本町においても少子化が進行しています。結婚を機に転出する若者が多い状況が続いています。保護者の子育てに対するニーズは多様化し、ひとり親家庭なども増加傾向にある中で、就業・育児環境においても多くの課題があります。そのため、若者の出会いをプロデュースし、将来の本町を支える子供たちを産み育てやすい環境を整備することが必要です。目指すべき方向。子どもの個性を最大限に発揮し、次世代を担う人材の育成のため小学校の再編整備を行い、特色のある教育環境を整えていきます。新婚世帯や子育て世帯から選ばれるまちづくりを展開していきます。結婚を希望する男女には出会いの場を、また、希望する子どもの数を実現できるサービスや子育て支援など、安心して出産・子育てができる環境を整備します。定住促進対策と組み合わせた少子化対策と子育て支援、仕事と育児の両立支援など、若い世代の結婚・子育てに対する希望の実現を目指します。子育ての悩みを 1 人で抱え込まず相談共有できる環境や、出産から子どもが就職するまで切れ目のない支援の実現を目指します。20 ページをお願いします。具体的な施策と KPI です。1 結婚推進対策の充実について、KPI として、婚活イベントの実施回数を 4 年間で 40 回、結婚新生活支援組数を 4 年間で 100 組を挙げました。具体的な施策は、(1) 婚活サポート事業の拡充、(2) 結婚新生活支援です。21 ページ、2 出産支援。KPI は出生数を 4 年間で 440 人です。具体的な施策として、(1) 多子世帯への助成、(2) 育児支援券のプレゼントを挙げています。続いて 22 ページをお願いします。3 子育て支援について。KPI は、子育ての感じ方満足割合(就学前児童親)を令和 6 年度 43%から令和 10 年度に 45%、子育ての感じ方満足割合(小学生親)を令和 6 年度 36%から令和 6 年度に 40%、母子手帳アプリ登録者男性割合を令和 6 年度 3%から令和 10 年度に 10%、子ども家庭センターの設置を令和 6 年度 0 ヶ所から令和 10 年度に 1 ヶ所とします。具体的な施策は(1) 病児・病後児保育の実施、(2) 一時預かり事業等の充実、(3) 子育て支援の情報発信強化、(4) 子育てに関するワンストップ相談体制の整備、(5) 公園施設の充実、(6) 切れ目のない子育て支援の実施です。4 教育環境の整備について。KPI として、コミュニティ・スクールの導入・継続を町内全小中学校対象としております。具体的な施策(1) 教育環境の整備、(2) コミュニティ・スクール

の導入・継続としております。基本目標③については以上です。

○会長

それではご質問等ございませんか。

○委員

小学校の再編計画については現在議論されていると思います。その中で前回の議会だよりを見ておりましたら、小学校の複式学級が今後、出てくるということで、令和10年度までに2校程度あったかと思います。そこについて町として対応されるという話も伺ってはいましたが、そういうことはその内容のところに書かなくていいかどうかと思ったところです。

○学校教育課長

来年度、令和7年度から六角小学校は2・3年生が今年度の児童のままであれば複式学級の予定となっております。その場合、教員の人的措置については、町費単独での措置となりますので、議会でもお話ししたとおり、常勤職員を入れるか、非常勤職員を入れるか、会計年度職員を入れるかということで現在検討をしています。この計画に上げるかどうかということまで議論ができていませんでしたが、上げるかどうかは今後検討していきたいと思っております。

○委員

令和10年度までなので、現在学んでいる子どもたちにはできるだけ良い環境で教育を受けてほしいと思っておりますので、そういう趣旨でちょっと発言をさせていただいたところです。

○会長

それでは24ページから27ページまで事務局より説明をお願いします。

○白石創生推進係主事

基本目標④魅力的な地域をつくる。目指すSDGsは下記の5つです。数値目標は、地域づくり協議会の設立を令和6年度の2カ所から令和10年度に6カ所です。現状と課題。急激な人口減少や高齢化に伴い、地域において担い手不足や伝統文化の継承ができていないなど様々な課題が出てきています。地域の課題は多種多様で、それぞれが知恵を絞って解決していくことが望まれています。地域にはキーパーソンとなるべき人材が埋もれています。地域の活力を取り戻すためには、地域の誰もが活躍できる社会を実現することが必要です。目指すべき方向。町民協働によるまちづくりとして、地域住民が主体となって地域活性化や課題解決に取り組むため、地域づくり協議会の設立・運営を支援します。地域の各団体やまちづくり団体等とともに地域を盛り上げていきます。頻発する自然災害に備えるため、地域の自主的な組織づくりを推進します。地域の人々が持つ豊富な経験・知識・文化を後世に継承していくとともに、誰もが生き生きと活躍できる社会を目指します。男女がお互いに人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる社会づくりを目指し

ます。具体的な施策と KPI。1 町民協働によるまちづくり。KPI に、地域づくり協議会の設立数を令和 6 年度の 2 カ所から令和 10 年度に 6 カ所、地域づくり団体設立・活動支援事業の活用件数を 4 年間で 20 件を挙げました。具体的な施策は、(1)地域づくり協議会の設立支援、(2)NPO 法人・CSO 活動の支援です。続いて 26 ページをお願いします。2 安全・安心で快適な住みよいまちづくりについて。KPI は、自主防災組織の組織率を令和 5 年度の 44.9%から令和 10 年度に 70%、住宅浸水対策事業補助件数を 4 年間で 8 件とします。具体的な施策として(1)自主防災組織の組織化推進、(2)「自然災害に備える」「快適に暮らす」住まいづくりを挙げます。続いて 27 ページです。3 誰もが活躍できるまちづくりについて。KPI は、健康体操サロン数を令和 6 年度の 30 カ所から令和 10 年度に 35 カ所、シルバー人材センター年間登録者数を 5 年後に 112 人、講座開催数を年間 20 回から年間 25 回、審議会・委員会における女性委員の割合を令和 10 年度に 40%です。具体的な施策は(1)生涯現役としての活躍促進、(2)女性活躍の推進、(3)スポーツ・健康増進のまち宣言の推進とします。基本目標 4 については以上です。

○会長

ただいまの説明についてご質問ご意見等ございましたらお願いします。

○委員

地域にいろいろな団体をつくって、自主的に動いてくださいねっていう考え方でいいのでしょうか。

○白石創生推進係長

はい、そのとおりですね。

○委員

私も地域づくり協議会のメンバーで、立ち上げから今も実行委員です。最初にもありましたが、デジタル化というのを使わないと、例えば地域づくりでも地域の人にもまだ伝えることができない状況があります。それは多分いろんな団体もそうですが、立ち上がったばかりって何もありません。地盤がないというか。例えば情報発信しようと思っても、役場はホームページ等ありますが、いろんな団体をつくるのであれば少しでもいいから足場が欲しい。そこまでケアしていただけないと、作ったのはいけれどそれが広まらない。広まらないということは、次にこの運営をしていくとき委員、いろいろな委員さんが必要ですが、人に頼むと「実行委員はちょっと…」と言われやすく、委員が集まらない。それを解決するには皆さんに活動を広げる必要がありますが、広げる場所がないというのが現状です。そういう活躍の場を示すような提供が欲しいなと感じていますので、ぜひここの中にも入れてほしいというところで。ちょっと要望です。

○総合戦略課長

実は、運営補助金でスマホをお持ちになって SNS の発信をされているところもあります。しかし委員がおっしゃるように、インフラの部分とマンパワーの部分というの

があると思います。特に協議会の役員の方が高齢になってくると、そこをサポートする人間というのがやはり必要になりますので、その部分というのは来年度あたりからですねサポート体制を充実させたいと思っています。これはマンパワーの部分です。デジタル化の部分につきましては、私達町としても町自体のことも発信していきたいと思っておりますし、地域づくり協議会の方々にも地域の活動を発信していただきたいという思いがありますので、その辺りも十分に検討させてください。

○会長

一応一通り基本目標④まで行きましたけども、全体的に言い忘れたことがございましたらご発言をお願いしたいと思います。

○委員

例えば佐賀市や伊万里、鹿島方面に仕事を持っていて、白石に住みたいけど住めないというのを結構感じます。例えば江北町だと江北駅がありますよね。あそこだと例えば福岡まで通勤できます。そういう環境を白石で作れないのかなと。例えば白石駅に巨大な駐車場を設けるとか、極端な話ですけどね。そういうアイデアが何かあるといいかなと思います。もう白石の仕事の枠を急にと広げることできないけども、職場から距離がある人でも白石に住みたいというのであれば、そういう交通手段が確保できるようなインフラが揃うといいなと思っているので、ちょっと考えていただければいいなと思いました。もう独り言と考えて結構です。

○会長

今日は本当にいろんな意見を出したけど出していただいた再度、検討していただきたいと思います。それではこれで議事の方を終了いたします。この後の進行を事務局でお願いします。

○総合戦略課長

皆様方ありがとうございました。それではその他の項に移ります。第4回の会議を12月下旬頃に計画しております。年末の非常にお忙しい時期で恐縮ですが、おそらく次回の会議が最終回になるかと思っております。12月18日(水)19時を事務局案とさせていただきたいと思います。今後の流れをご説明させていただきます。年明けて1月に、町議会へ報告します。その後1月中旬から2月にかけてパブリックコメントを行います。最終には3月に策定ということで考えております。パブリックコメントのご意見で修正等が生じた場合は、委員の皆様にご報告させていただきます。事務局からは以上でございますが、委員の皆様方から何かございましたら。言い忘れていること等よろしいでしょうか。ご報告したいこと等ございましたらお願いしたいと思います。他になければ、これをもって令和6年度第3回白石町まち・ひと・しごと創生推進会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたってご協議いただきまして誠にありがとうございました。どうも皆様方お疲れ様でした。